“地域人材育成コース”における学生主体の地域協働プロジェクト「コープロ」の構築と実践

島根大学　地域未来協創本部　人材育成・キャリアデザイン部門長
准教授　丸山実子（MARUYAMA　JITSUKO）　専門：キャリア教育
2016年大学教育センター（旧キャリアセンター）、2021年より地域未来協創本部

地域人材育成コース生設置の背景

✦平成25年度（2013）に**COC事業**、平成28年度（2016）に**COC＋事業**が採択。

（その後は理念を引き継ぎ「しまね産学官人材育成コンソーシアム」設立）※R2（2020）より

✦平成28年度（2016）より現在の、総合型選抜Ⅰ「へるん入試」（地域志向入試）が開講され、山陰の地域社会に貢献意欲の高い生徒を選抜しています。

入学後は、学部横断的な学びをするために

「地域人材育成コース生」として学びます。

そのために**特別な教育プログラム**を提供している。



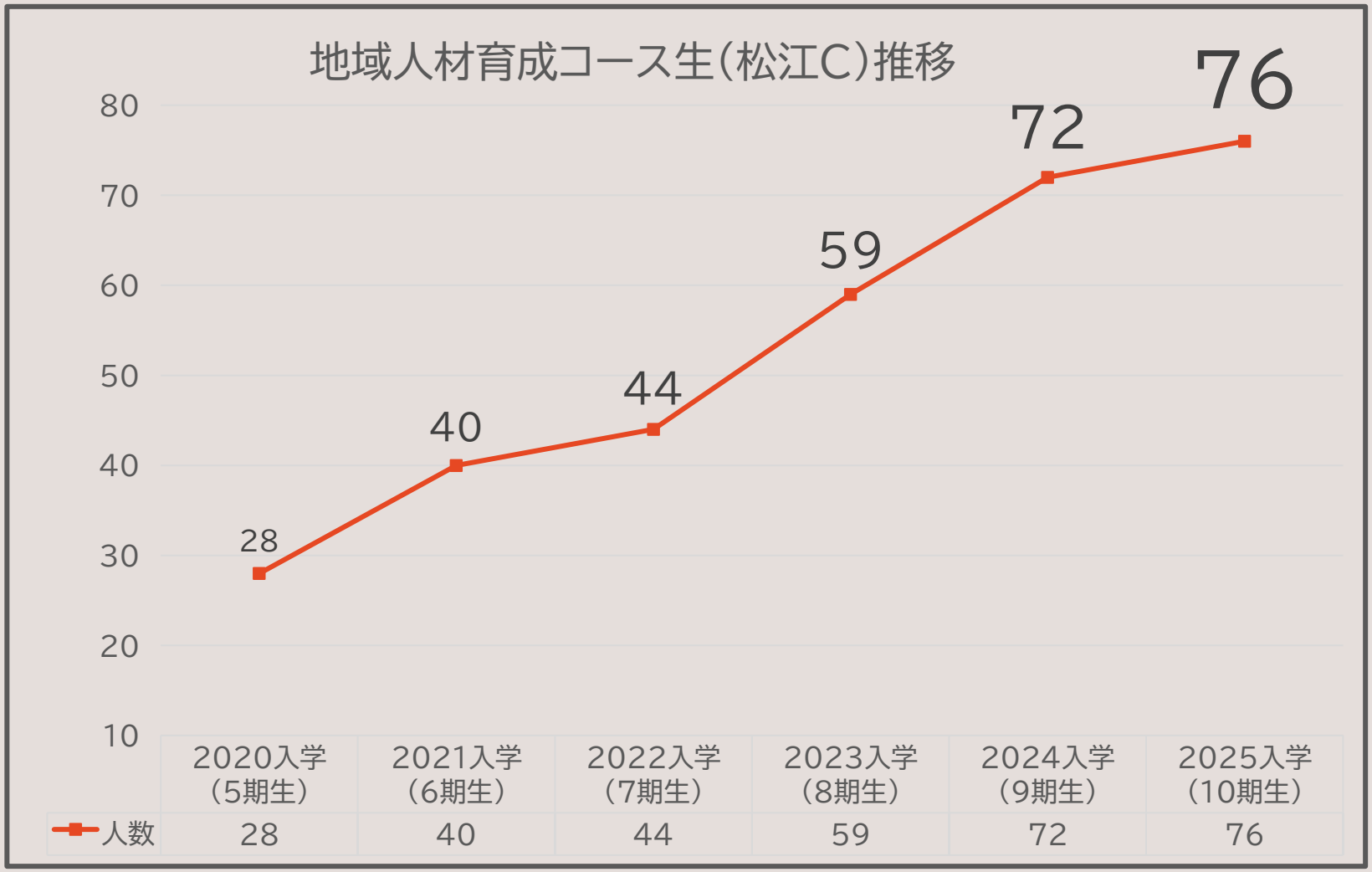
現在（2026年8月）の地域人材育成コースの人数

島根大学

コース生の人数：松江キャンパス「赤」と出雲キャンパス（医学部）「青」

学年	島根県または鳥取県枠	全国枠	合計
1年（2026入学）11期生	61＋11	12＋7	91
2年（2025入学）10期生	63＋20	13	96
3年（2024入学）9期生	59＋15	13	87
4年（2023入学）8期生	46＋26	13	85
合計	229＋72	58	359

地域人材育成コース（松江Cのみ）



←2020年から**6年間**の推移

令和８年（2026）
8月現在において
１～４年生まで
約280名が所属している。

※10年前：第1期生2016入学は24名
第11期生2026入学は73名

普段は学部に所属し、学部横断型にて
正課（BS科目、CS科目、地域貢献インターンシップ科目）と準正課（課外活動）が組み込まれた
特別教育プログラムを修了し、修了書をもって卒業することになっている。

地域人材育成コース生における「特別教育プログラム」とは



課題→今回の取組

【課題】 ・地域人材育成コース生増加により、**正課・準正課科目の可視性低下。**

・**正課教育と地域実践をつなぐ学びの仕組みが不足**

【取組】**学生主体**の地域協働・社会実装型教育**「コープロ」の開発。**

【方法】**正課・準正課を接続**し、**学修成果を可視化。**

❶これまで**3年次から行っていた「準正課科目」を1年「後期」に移行**し、**1年「前期」に行われる「正課科目」と連結**させ、初年次教育として位置付けた。

❷**準正課科目（課外活動）をプロジェクト化する運営体制**を整えた。



変更前

3年次以降の課外活動は参画困難

島根大学

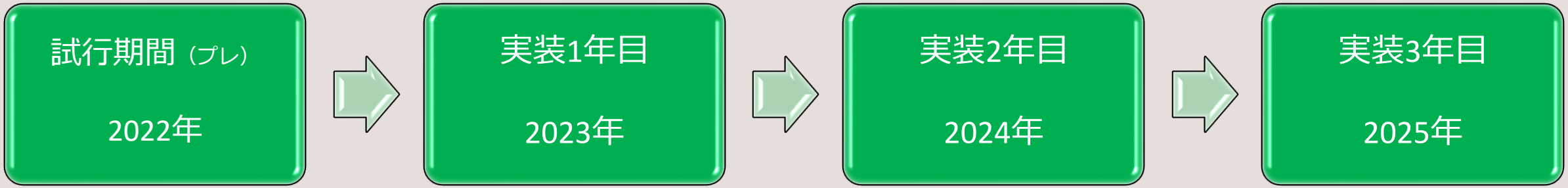
	1年生		2年生		3年生		4年生	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
正課	ベーストーン科目 A 地域について理解を深め、基本的な協働スキルなどを習得		キャップストーン科目 ベーストーン科目の学びを土台に、さらに各自の学部の専門科目と結び付けた学び		地域貢献インターンシップ科目 学生自らが地域の受け入れ先企業と交渉し、定められた時間インターンシップを行う			
準正課					課外活動			

変更後

・課外活動を1年次後期へ移行
・正課科目と連結・課外活動をプロジェクト化



●コープロ構築：試行期間（プレ）→実装1～3年目



2022年の取組
【試行期間（プレ）】：【課題】→【修正】

島根大学

【試行期間（プレ）】※44名中29名が協力

✦「課外活動」を覚えやすいネーミングに命名　地域人材育成コース生専用プロジェクト＝**コープロ**

✦６つのプロジェクトを立ち上げた（しまね産学官人材育成コンソーシアム賛助団体リストより選定）

✦実施期間8月～12月末

課題⇒修正

①人員＝運営体制が必要であること。

②プロジェクトは、1か月早める必要があること。

③「プロジェクト応募用紙」を開発し、プロジェクトを可視化する必要があること。

④やったままではなく、成果発表会を設け互いに共有する場を設ける必要があること。

運営体制

運営体制　14名

1．地域未来協創本部（本部長兼副学長・副本部長）：教員2名

2．地域未来協創本部　人材育成・キャリアデザイン部門長：教員1名（本人）

3．地域未来協創本部事務局（地方創生推進課）：事務員3名

4．6学部各学科より兼任教員：教員6名

5．専門コーディネーター：2名（元県庁職員・元市役所職員）

✦特徴的なのは、教員のみならず、事務職員、専門コーディネーターと
協働して運営がなされたこと。

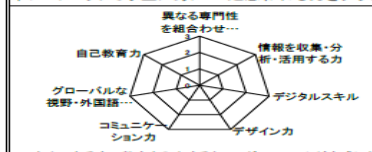
プロジェクト応募用紙開発

身につく力は、島根県高等教育のグランドデザインを用いて3点満点で示したExcel内で入力しグラフ化できるようにした

島根大学

地域人材育成コース生専用プロジェクト（通称：コープロ）募集用紙

島根大学　地域未来協創本部（人材育成・キャリアデザイン部門）
Tel（0852）-32-9814　Fax(0852)-32-9816

入力箇所		
1　プロジェクト名		
2　受け入れ先 （担当者及び連絡先）	企業施設名	
	住所	
	担当者名	
	電話番号	Mail
3　プロジェクト期間	活動期間	（例）令和6年7月12日　～　令和6年12月31日
4　プロジェクトの時間	活動時間が決まっていれば記載してください　例）平日の17時以降など	
	（例）平日9時～16時（曜日・時間帯は学生と相談して決めます）	
5　場所	（例）「2．受け入れ先」と同じ	
6　活動の内容 （プロジェクトを通じて解決したい課題、具体的な活動内容など）		
7　学生に期待する役割		
8　身につく力	本プロジェクトで学生に身につくと思われる力をグラフに示し、コメント欄でPR	
		コメント：
	右上にある表に数字を入力するとレーダーチャートが完成します。 （1：該当しない　2：目標としている　3：大いにねらっている）	
9　受入れ人数	長期間にわたるものや、シリーズで行うものについて、ここに書けない場合は、別紙を添付。 また、参加する学生の専攻の指定や経験の有無等の指定がある場合も、その旨、記入ください。 「男性・女性」の人数については必要に応じてご記入ください。	
	定員	名　（　男性　名　、　女性　名　）
	コメント	
10　活動中の安全管理	参加する学生の保険加入等についての措置 ※学生は「学生教育研究災害傷害保険」及び「学生教育研究賠償責任保険」（担当：学生支援センター　学生支援課）、または「学生総合共済」及び「学生賠償責任保険」（担当：大学会館　大学生協）に必ず加入しないと参加できない。	
	（例）上記の保険加入に加え、必要に応じて〇〇保険に加入いただきます。	
11　報酬・交通費・送迎の有無	報酬や交通費支給の有無と予定金額・送迎の有無等について	
	（例）報酬、交通費、送迎は無。荒天時等の送迎は要相談。	
12　その他 （書き足りない情報はこちら）	（例）7月1日からの活動を予定しています。	

●以下については、島根大学　地域未来協創本部（人材育成・キャリアデザイン部門）が記入

13　プロジェクト認定	確認		認定	
14　完了確認（活動報告書受理）	確認		認定	

地域人材育成コース生専用プロジェクト　身に付く力

	身に付く力	身に付く力の詳細
1	異なる専門性を組合わせ解決策を導く力	課題等の解決のために、自らの専門性を活用するだけではなく、必要に応じて異分野の専門性を有する複数のプロジェクトメンバーとコラボレーションし、課題解決策を導く力を身に付けることができる。
2	情報を収集・分析・活用する力	必要な情報を適切に検索・選択して効率よく分析し、正しく活用する力を身に付けることができる。
3	デジタルスキル	デジタルスキルを駆使し、課題解決を推進する力を身に付けることができる。また、現代社会においてDXが必要とされる背景や活用事例などDXリテラシーを身に付けることができる。
4	デザイン力	事物の価値を新しい観点から発掘し、これらを組み合わせ再構成することにより、新しい商品や産業形態を創出する力を身に付けることができる。
5	コミュニケーション力	多様な価値観や異文化・異分野の人々に対して、積極的に対話・交流を促し、協働を創り出す力を身に付けることができる。
6	グローバルな視野・外国語スキル	多文化理解・異文化理解に必要な外国語スキルとグローバルな視野・発想力を身に付けることができる。
7	自己教育力	自己の有する知識・技能を高め更新しようとする意識を有し、継続的に自らを教育していく自己教育力を身に付けることができる。

2023年の取組

島根大学

▼１月～４月

①運営体制確立（14名配置）

②プロジェクト応募用紙の開発

（学生が身につく力・７つを取り入れた）

③前年度実施の６プロジェクトに４プロジェクトを加え、

１０プロジェクトの選定・決定を行った。

④実施期間を7月からに繰り上げた。

2023年の取組

島根大学

▼5月
・決定した１０プロジェクト先に、プロジェクト応募用紙を発信・回収。
・決定した１０プロジェクトに、学内責任者を割り当てる。

▼６月
・企業が、学生に対しプロジェクトの全体プレゼンと個別説明（上旬）。
・学生が、希望するプロジェクトにエントリーシートを提出（中旬）。
・教職員がエントリーシートを収集・選定し、結果を学生に開示（下旬）。
・学生に、事前スキルチェックシートを実施。

2023年の取組

島根大学

学内責任者は巡回・見回りのみ

▼７月
・学生がプロジェクトを開始する。兼任教員が個人面談をする。
▼８月から１２月※12月末でプロジェクトは終了とした。
・学内責任者が適宜、企業とコンタクトを取り、巡回・進捗確認する。
・各プロジェクト進捗は、定例会議で共有の場をもつ。
・兼任教員が個人面談をする。

▼翌年１月：成果発表会を県民会館（中ホール）で実施。
▼翌年２月：学生へ活動報告書提出と、事後スキルチェック実施。
▼翌年３月：企業へ御礼周りと、
事前・事後スキルチェックの効果測定分析結果の提示。
振り返り会・次年度継続調査実施。

2023年プロジェクト数

島根大学

・以下１０プロジェクトを
2023年度入学者１年生全員（５９名）に実施した。（1年・後期）

2023	プロジェクト名（PJ名）	PJ先
1	しまねJOBGirl	山陰中央テレビ
2	『全世代の「つながるんダ」を「面白いんダ」に変えるプロ	社会福祉法人みずうみ
3	NHK松江放送局職員との「ミニ番組」制作プロジェクト	NHK松江放送局
4	かるたで建設業の魅力発信プロジェクト	㈱中筋組
5	米粉普及拡大を目指すレシピコンテストプロジェクト	JAしまね
6	有機農業の魅力が伝わるオーガニックメニューづくりプロジ	JAしまね
7	美肌のさらに先へ！玉造温泉街×湯治プロジェクト	合同会社 薬雲（やくも） ※医学部発ベンチャー
8	島根スサノオマジック学生応援プロジェクト	バンダイナムコ島根スサノオマジック
9	enunプロジェクト	enun（ワークアット）
10	シマダイ生西ノ島小中学校出張プロジェクト	西ノ島町教育委員会、西ノ島小中学校

2025年プロジェクト数

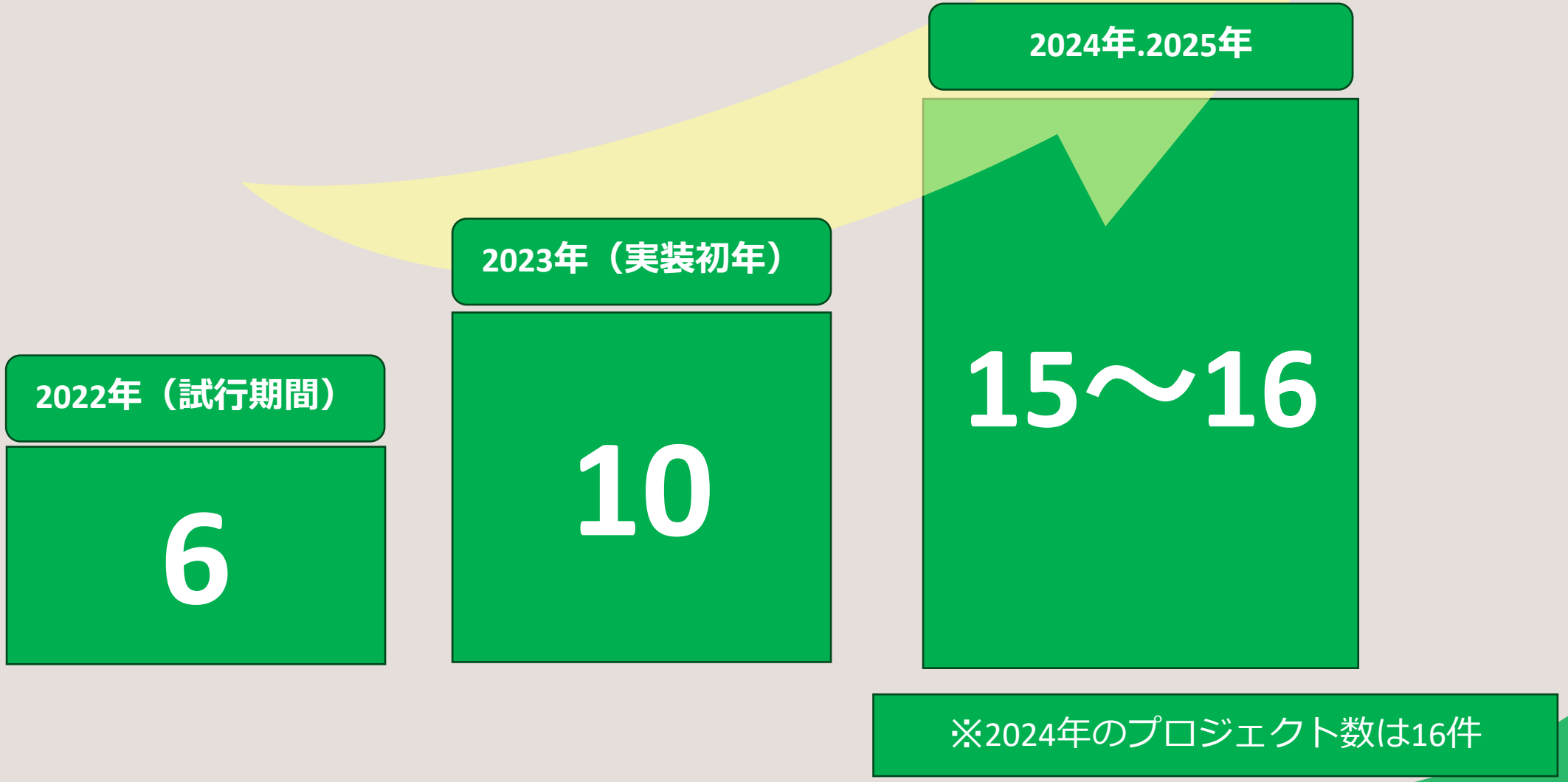
※2024年のプロジェクト数は16件

島根大学

・以下１５プロジェクトを
2025年に入学した１年生全員（７６名）に実施した。（1年・後期）

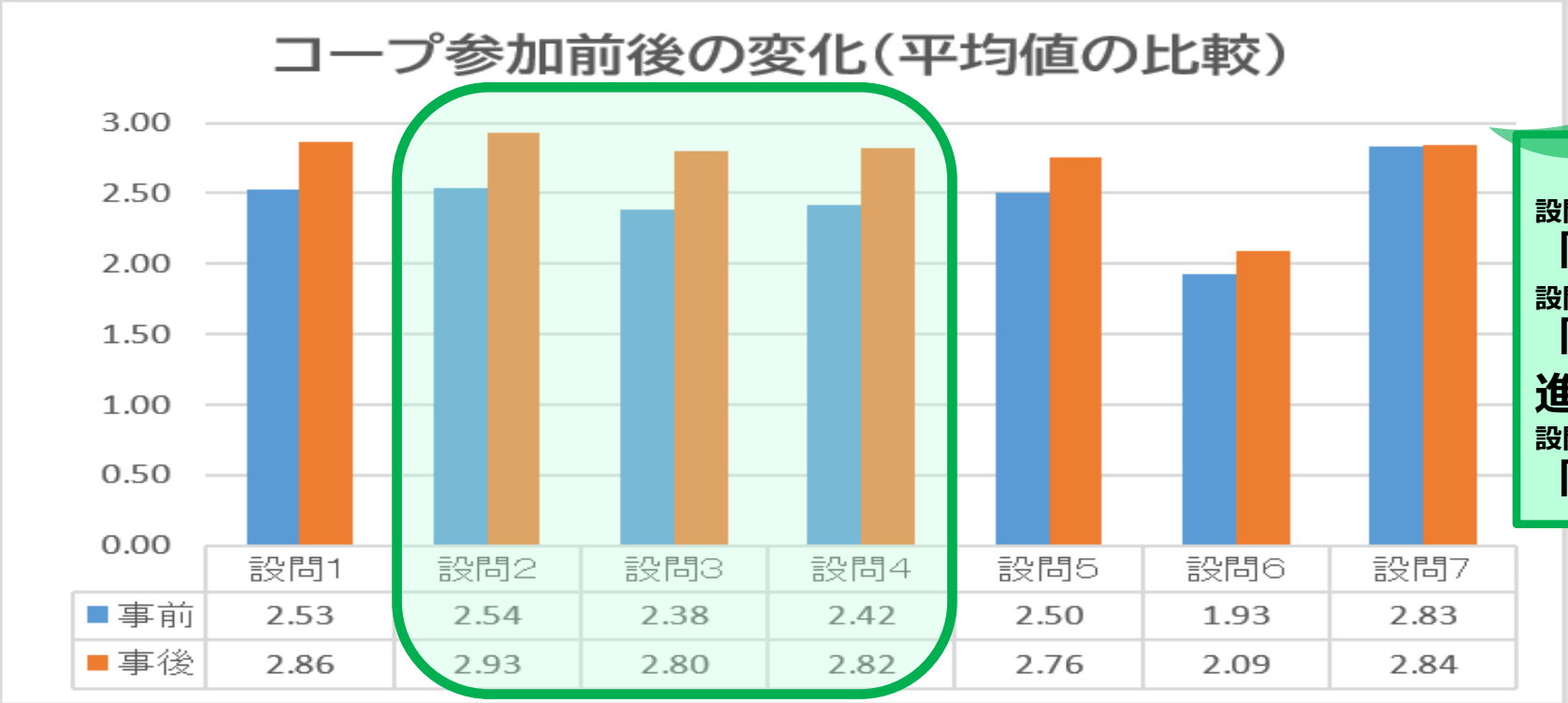
2025	プロジェクト名（PJ名）	PJ先
1	玉造温泉×薬草・湯治プロジェクト	合同会社 薬雲（やくも） ※医学部発ベンチャー
2	『全世代の「つながるんダ」を「面白いんダ」に変えるプロジェクト』Ⅲ	社会福祉法人みずうみ
3	「さっちぃ」プロジェクト ～会社キャラクター育成プロジェクト～	㈱中筋組
4	島根スサノオマジック学生応援プロジェクト	バンダイナムコ島根スサノオマジック
5	コワーキングスペース『enun』プロジェクト	enun（ワークアット）
6	算数・数学パワーアップ教室	益田市教育委員会
7	やさいの魅力化プロジェクト	㈱みしまや
8	しましん「地域密着×未来デザインプロジェクト×～金融×地域を動かす"つながり"体験～」	しまね信用金庫
9	滞在型交流施設「うみのいえ」を中心とした地域と若者の交流促進プロジェクト	一般社団法人umi
10	まつえ土曜夜市「謎解きクエスト」企画運営プロジェクト＆白潟エリアSNS発信プロジェクト	㈱まつくる
11	ワークルールを学べるカードゲームを創ろう！	株式会社BeOne
12	地域を盛り上げよう！広瀬町×サンパナ変人類学プロジェクト	山陰パナソニック㈱
13	会社は社員のためにある！「家族の企業参観日」の企画・運営プロジェクト	協和地建コンサルタント㈱
14	応援席をうめつくせ！～ディオッサ出雲FC応援プロジェクト～	島根銀行
15	大森の湯再生プロジェクト	㈱さんびる

プロジェクト数の増加


2022年（試行期間）
6
2023年（実装初年）
10
2024年.2025年
15～16
※2024年のプロジェクト数は16件

実施事前事後の変化（定量的結果）

設問１「異なる専門性を持つメンバーと協働して解決策を導く力」、設問２「情報を収集・分析・活用する力」、設問３「デジタル技術を活用して課題解決を進める力」、設問４「新たな価値やアイデアを創造する力」、設問５「多様な価値観や異分野の人々と対話・協働する力」、設問６「グローバルな視野と多文化理解に関する力」、設問７「継続的に学び自己を成長させる自己教育力」の7項目について「自信がある」「わからない」「自信がない」の3件法による自己評価を実施した。　2025年度学生76名



特に伸びが高かったもの

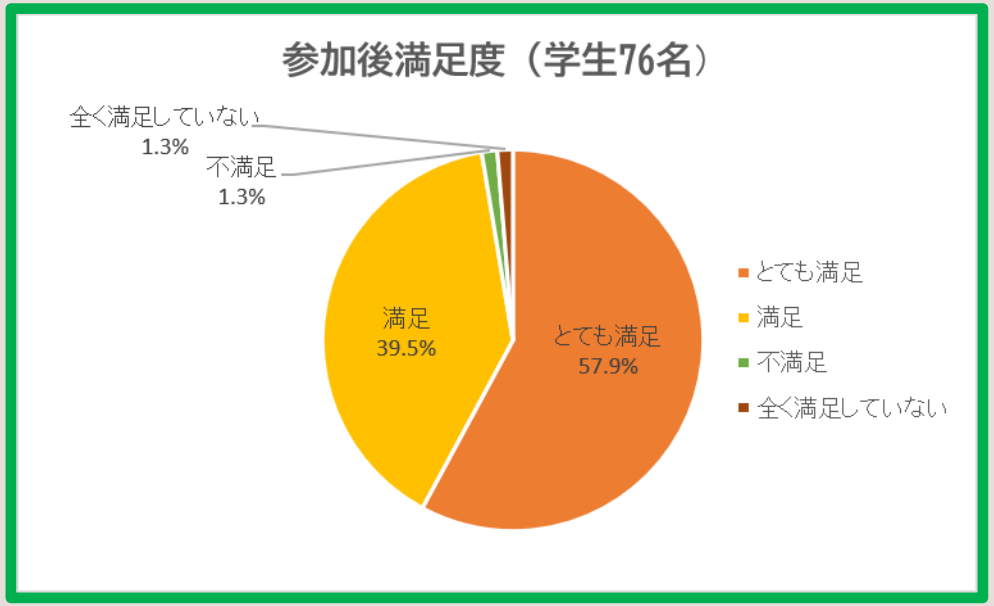
設問２
「情報を収集・分析・活用する力」

設問３
「デジタル技術を活用して課題解決を進める力」

設問４
「新たな価値やアイデアを創造する力」

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
事前 M(SD)	2.53 (0.66)	2.54 (0.64)	2.38 (0.69)	2.42 (0.75)	2.50 (0.70)	1.93 (0.77)	2.83 (0.47)
事後 M(SD)	2.86 (0.42)	2.93 (0.34)	2.80 (0.49)	2.82 (0.45)	2.76 (0.51)	2.09 (0.77)	2.84 (0.46)

実施事前・事後の変化（満足度・自由記述）



満足度

「とても満足」が44名（約57.9%）、「満足」が30名（39.5%）であり、**「満足」以上の回答は74名（97.4%）**であった。
満足度の平均値は3.58（4点満点）であり、参加学生の満足度は極めて高い水準だった。

地域理解

「地域の方と協働することで大学の授業だけでは得られない学びがあった」
「地域課題の複雑さや現場の実情を知ることができた」

協働

「異なる専門分野の学生と協力することで新たな視点を得られた」「企業や地域の方との対話を通してコミュニケーション力が向上した」

キャリア形成

「自分の強みや課題を見つめ直す機会となった」「将来の進路や働くことについて具体的に考えるようになった」
「地域に関わる仕事への関心が高まった」

困難・苦労

「地域関係者との日程調整に苦労した」
「初めて接する社会人とのコミュニケーションに戸惑った」
「学業との両立が難しい時期があった」

日本経済新聞社「日経グローカル」が実施した「大学の地域貢献度に関する全国調査2025」において、全国総合3位（国立大学では1位）という過去最高位を獲得。

地域貢献度ランキング3位受賞を語る大谷学長





各取組について，詳細は以下のとおりです。

じげおこしプロジェクト

地域人材育成コース

しまね産学官人材育成コンソーシアム

地域志向型入試

1000時間体験学修

SDGsユニット認定制度

ご清聴ありがとうございました。

日頃より「地域人材育成コース」の
理念と活動をご理解いただき、ご支援くださっている
学内の教職員の皆様にも深く感謝申し上げます。

- 島根大学　地域未来協創本部　人材育成・キャリアデザイン部門長
- 准教授　丸山実子（MARUYAMA　Jitsuko）